

実施学科課程表(24生以降)

地域研究メジャー

(令和7年度)

授業科目	単位	開講年	実施時期	基盤科目	受講可能年次	教員免許 該当科目	旧カリ科目名	担当教員	ページ
情報社会論	2	7	後		2年以上	公民	情報社会論	豊島	1
イノベーション社会論	2	7	前		2年以上	公民	イノベーション社会論	豊島	2
異文化間コミュニケーション論	2	7	前	○	2年以上	公民	異文化間コミュニケーション論	久保田	3
多文化共生論	2	8	後		3年以上	公民	多文化共生論	久保田	
ビジネス英語	2	7	後		1年以上		ビジネス英語A	ホワイト	4
現代英・米社会論	2	7*	前		2年以上		現代英・米社会論	朝美	5
英・米文化論	2	8*	前		1年以上		英・米文化論	平野	
現代英語論	2	7*	前		1年以上		現代英語論	平野	6
ヨーロッパ文化論	2	7*	後		1年以上		ヨーロッパ文化論	非(安田)	7
現代ヨーロッパ社会論	2	8*	前		1年以上		現代ヨーロッパ社会論	非(安田)	
アジア文化論	2	8*	後		3年以上		アジア文化論	包	
現代アジア社会論	2	8*	後		3年以上	公民	現代アジア社会論	包	
地域文化資源論	2	7*	前		2年以上	公民	地域文化資源論	久保田	8
地域経営論Ⅰ	2	7	前	○	2年以上	公民	地域経営論Ⅰ	甲斐	9
地域経営論Ⅱ	2	7	後		2年以上	公民	地域経営論Ⅱ	甲斐	10
経済地理学Ⅰ	2	7	前	○	2年以上	公民	経済地理学Ⅰ	美谷	11
経済地理学Ⅱ	2	7	後		2年以上	公民	経済地理学Ⅱ	美谷	12
自治体経営論Ⅰ	2	8	前		3年以上	公民	都市経営論Ⅰ	高島	
自治体経営論Ⅱ	2	8	後		3年以上	公民	都市経営論Ⅱ	高島	
地域分析論Ⅰ	2	7	前		1年以上		地域分析論Ⅰ	城戸	13
地域分析論Ⅱ	2	7	後		1年以上		地域分析論Ⅱ	城戸	14
地域構造論	2	7	後		2年以上		地域構造論Ⅰ	宮町	15
地域発展論	2	8	前		3年以上		地域構造論Ⅱ	宮町	
農村発展論Ⅰ	2	8	前		3年以上	公民	農村発展論Ⅰ	山浦	
農村発展論Ⅱ	2	8	後		3年以上	公民	農村発展論Ⅱ	山浦	
憲法Ⅰ	2	7	前	○	2年以上	公民	憲法Ⅰ	青野	16
憲法Ⅱ	2	7	後		2年以上	公民	憲法Ⅱ	青野	17
民法Ⅰ	2	7	前	○	2年以上	公民	民法Ⅰ	亀岡	18
民法Ⅱ	2	7	後		2年以上	公民	民法Ⅱ	秋山	19
民法Ⅲ	2	8	前		3年以上	公民	民法Ⅲ	秋山	
民法Ⅳ	2	8	後		3年以上	公民	民法Ⅳ	亀岡	
会社法Ⅰ	2	8*	前		3年以上	商業	企業組織法Ⅰ	未定	
会社法Ⅱ	2	8*	後		3年以上	商業	企業組織法Ⅱ	未定	
企業取引法Ⅰ	2	8*	前		3年以上	商業	企業取引法Ⅰ	未定	
企業取引法Ⅱ	2	8*	後		3年以上	商業	企業取引法Ⅱ	未定	
労働法Ⅰ	2	8	前		3年以上	公民	労働関係法Ⅰ	小山	
労働法Ⅱ	2	8*	後		3年以上	公民	労働関係法Ⅱ	小山	
労働法Ⅲ	2	8*	後		3年以上	公民		小山	
行政法	2	8	前		3年以上		行政法	田代	
租税法	2	7	後		2年以上		租税法	田代	20
持続可能な農業と法	2	8	後		3年以上			亀岡	
消費者と法	2	8*	前・集中		3年以上		消費者と法	非(河上)	
犯罪と法	2	7*	後		2年以上		犯罪と法	非(利光)	21
法律の基礎と実務	2	7	後		1年以上		法律の基礎と実務	非(熊谷・榎倉・渡辺・佐藤・利光・貞永・小島)	22

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式									
K532R301		情報社会論 (Information and Society)					メジャー専門科目 地域研究メジャー科目			対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態								
選択		2	2, 3, 4	経済学部	前期	月1	日本語				単独								
担当教員	氏名 豊島慎一郎																		
	E-mail stoy@oita-u.ac.jp 内線 7708																		
授業の概要	テーマ: 情報社会とは何か 情報社会について「自ら考える力」を身につけることが本講義のねらいである。本講義では、現代社会におけるメディア環境の変化や社会変動を踏まえ、社会学の観点から情報通信技術(ICT)と社会の関係性やコミュニケーションのあり様について論じる。																		
具体的な到達目標										DP等の対応(別表参照)			1	2	3	4	5	6	7
目標1	情報社会論に関する基礎的知識や応用力を修得する。											○							
目標2	与えられた課題について、自分の考えを論理的に展開できる力を修得する。												○						
目標3																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
各DPへの関連度(計10)													5	5					
授業の内容																			
1	オリエンテーション																		
2	情報化とコミュニケーション1(情報社会と日常生活)																		
3	情報化とコミュニケーション2(コンピュータの歴史)																		
4	情報化とコミュニケーション3(インターネットの歴史)																		
5	情報化とコミュニケーション4(電話の歴史)																		
6	情報社会と社会問題1(サイバー犯罪と現代社会)																		
7	情報社会と社会問題2(同上)																		
8	中間のまとめ・試験																		
9	メディア・リテラシーとは何か1(定義と歴史)																		
10	メディア・リテラシーとは何か2(海外の実践事例)																		
11	メディア・リテラシーとは何か3(日本の実践事例)																		
12	地域情報化とは何か1(定義と歴史)																		
13	地域情報化とは何か2(ICTとまちづくり)																		
14	地域情報化とは何か3(災害復興・支援の事例)																		
15	総論																		
ラーニングシグ	A:知識の定着・確認	○	小レポートの提出を毎回課す(Moodleを使用)。					エ そ 夫 の 他 の	映像資料やMoodleの活用。										
	B:意見の表現・交換																		
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造																		
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		講義資料や参考書等の情報を必要に応じて予習する(22h)。																
	事後学修		講義資料や参考書等の情報を必要に応じて復習する(23h)。																
	想定時間合計		45																
教科書	教科書は指定しない。 講義で使用した資料は、Moodleにアップロードする。																		
参考書	土橋臣吾編, 2017, 『デジタルメディアの社会学』北樹出版。 西垣通・伊藤守編, 2015, 『よくわかる社会情報学』ミネルヴァ書房。大石裕, 1992, 『地域情報化—理論と政策』世界思想社。 佐藤卓己, 2020, 『メディア論の名著30』筑摩書房。 菅谷明子, 2000, 『メディア・リテラシー』岩波書店。ほか																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	平常点(小レポート等)						50%	○	○										
	中間・期末試験						50%	○	○										
小レポートおよび中間・期末試験の合格を単位取得の条件とする。																			
注意事項	講義の進行上、スケジュールを変更する可能性がある。																		
備考																			
リンク																			
	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K532R302		イノベーション社会論 (Innovation and Society)					メジャー専門科目 地域研究メジャー科目		対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態									
選択	2	2,3,4	経済学部	前期	火2	日本語		単独									
担当教員	氏名 豊島慎一郎																
	E-mail stoy@oita-u.ac.jp 内線 7708																
授業の概要	本講義では、情報通信技術(ICT)の革新に伴うコミュニケーションの変容や社会変動等の様々な社会現象を関連づけながら、社会学の観点からイノベーションの社会的・文化的な諸条件やプロセスを明らかにし、今後の政策的・実践的方策や社会システムのあり方を考える。																
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	「イノベーションの社会学」に関する基礎的知識や応用力を修得する。									○							
目標2	与えられた課題について、自分の考えを論理的に展開できる力を修得する。										○						
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)										5	5						
授業の内容																	
1	講義説明																
2	イノベーションと現代社会																
3	イノベーションとまちづくり1(観光まちづくり)																
4	イノベーションとまちづくり2(まちづくりNP0等)																
5	イノベーションとまちづくり3(「農村イノベーション」)																
6	イノベーションと高齢社会5(シニアSOH0)																
7	イノベーションと高齢社会6(高齢者とICT活用)																
8	中間のまとめ・試験																
9	イノベーションと災害支援1(東日本大震災等)																
10	イノベーションと災害支援2(災害支援とICT)																
11	イノベーションと災害支援3(災害支援とSNS)																
12	イノベーションと災害支援4(災害復興のまちづくり)																
13	ソーシャル・イノベーションとは何か1(市民主体のまちづくり)																
14	ソーシャル・イノベーションとは何か2(展望と課題)																
15	総論																
ラーニングエッセンスグループ	A:知識の定着・確認	○ 小レポートの提出を毎回課す(Moodleを使用)。					エ そ 夫 の 他 の	映像資料やMoodleの活用。									
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて予習する(22h)。															
	事後学修	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて復習する(23h)。															
	想定時間合計	45															
教科書	教科書は指定しない。 講義で使用了資料は、Moodleにアップロードする。																
参考書	野中郁次郎ほか、2014、『実践ソーシャル・イノベーション』千倉書房。 野中郁次郎編、2021、『共感が未来をつくる：ソーシャルイノベーションの実践知』千倉書房。 大澤健・米田誠司、2019、『由布院モデル：地域特性を活かしたイノベーションによる観光戦略』学芸出版社。ほか																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	平常点(小レポート等)						50%	○	○								
	中間・期末試験						50%	○	○								
小レポートおよび中間・期末試験の合格を単位取得の条件とする。																	
注意事項	講義の進行上、スケジュールを変更する可能性がある。																
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式					
K522R205		異文化間コミュニケーション論 (Cross Cultural Communication)					学部基盤科目			対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	2, 3, 4	経	前学期	木2	日本語	英語		単独						
担当教員	氏名 久保田 亮 E-mail yuralria@oita-u.ac.jp 内線 7730														
授業の概要	異文化間コミュニケーションを実りあるものとするために必要な能力は、英語をはじめとする外国語運用能力だけではありません。語学力に磨きをかけると同時に、文化とコミュニケーションのそれぞれの特徴を適切に理解する必要があります。本講義では、この授業では、言語学・社会言語学が用いる基礎的な概念を学習し、その理解を深めるためのエクササイズを重ねることで「人間のコミュニケーション」という実践についての理解を深めます。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	文化、コミュニケーション等の授業内で紹介した概念を理解する。								○	○			○		
目標2	異文化間コミュニケーションの現場で生じる諸問題の原因を理解する。								○	○	○				
目標3	コミュニケーションをめぐる問題に対処するための技法を理解する。									○				○	
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度 (計10)									2	3	2		1	2	
授業の内容															
1	ガイダンス・グループディスカッションについて														
2	グローバリゼーションと多文化社会を生きる力														
3	コミュニケーションとサイン														
4	文化について考える														
5	言語によるコミュニケーション														
6	非言語コミュニケーション														
7	グループディスカッション(1):異文化適応力について														
8	中間試験														
9	アイデンティティとコミュニケーション														
10	メディアで作られる文化														
11	グループディスカッション(2):メディアリテラシーについて														
12	グローバル化する世界の異文化接触														
13	コミュニケーションの阻害要因														
14	多文化とうまく付き合うために														
15	グループディスカッション(3):グローバル化する地域社会について														
授業内容の概要	A:知識の定着・確認	○	・ミニッツ・コメントの作成を通して講義内容をより深く理解する機会を提供します。						H y s t e r y						
	B:意見の表現・交換	○	・グループディスカッションを通してコミュニケーションを実践的に学習します。												
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造		・課題への取り組みを通して講義時間外での学習を促します。												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	教科書、参考文献に対して目を通し、予習する。グループディスカッションのための準備を行う(30h)。													
	事後学修	ミニッツコメントの評価, コメントに目を通し, 授業での学習成果についての確認作業を行うとともに, 教科書、ノート, 参考文献を用いて復習する(15h)													
	想定時間合計	45													
教科書	八島智子、久保田真弓(2012)「異文化コミュニケーション論:グローバルマインドとローカルアフェクト」松柏社。														
参考書	授業中に適宜紹介します。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	ミニッツ・コメント		20%		○										
	課題(グループディスカッションを含む)		20%	○	○	○									
	中間試験		20%	○	○										
	期末試験		40%	○	○	○									
注意事項	遅刻、私語等の授業進行を妨げる行為があった場合、退出を命じることがあります。 授業スケジュールは変更する場合がありますため、moodle・掲示の確認を怠らないでください。														
備考	初回授業で成績評価方法や授業進行について詳しく説明します。必ず出席してください。上記に掲げた授業内容は状況に応じて変更する場合があります。														
リンク															
	URL														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式									
K531R304		ビジネス英語 (Business English)					メジャー専門科目 地域研究メジャー科目			対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態								
選択		2	1年	経済学部	後期	月3	英語		日本語		単独								
担当教員	氏名 ホワイト クリス																		
	E-mail chris-white@oita-u.ac.jp 内線 6612																		
授業の概要	Through this introductory course, students will be introduced to a variety of business related material covering all four skills; reading, writing, listening and speaking. Student progress will be measured both with a number of TOEIC-style practice sections together with a variety of student-centered output tasks. Practical work skills such as creating a cover letter and resume will ultimately lead to participation in a mock business interview. This course is open to IBP students who have a TOEIC level of approximately 400-500+, enjoy practical speaking opportunities, and would benefit from having a fuller understanding of English as it is used in the work environment. Students are required to have a laptop computer to participate in class.																		
具体的な到達目標									DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7
目標1	Develop a basic understanding of business vocabulary and etiquette								○	○		○		○					
目標2	Improve presentation skills								○	○		○		○					
目標3	Practice a variety of practical communicative skills and situations that are common to the workplace								○	○	○	○		○					
目標4	Practice essential test taking strategies for the TOEIC.								○	○									
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
各DPへの関連度 (計10)									3	3	1	1		2					
授業の内容																			
1	Orientation / Unit 1 - Talking about jobs / meetings (TOEIC homework)																		
2	Unit 1 - (TOEIC homework)																		
3	Unit 2 - Emails, scheduling, (TOEIC homework)																		
4	Unit 2 - (TOEIC homework)																		
5	Unit 3 - Travel, advice, (TOEIC homework)																		
6	Unit 3 - (TOEIC homework)																		
7	Unit 4 - Describing people & objects, opinions, (TOEIC homework)																		
8	Unit 4 - (TOEIC homework)																		
9	Unit 5 - Word groups, quantity, eating out, requests, (TOEIC homework)																		
10	Unit 5 - (TOEIC homework)																		
11	Unit Test																		
12	Project - drafting resumes																		
13	Project - drafting cover letters																		
14	Project - mock interview practice																		
15	Job interviews / Submission of final project																		
ラ イ フ ニ テ ン グ ブ	A:知識の定着・確認		○	Review exam, group discussion and presentations, LTD, peer response,				エ そ 夫 の 他 の	Listening practice, creating of presentation materials, use of technology (students require a laptop computer and will access Zoom in each class).										
	B:意見の表現・交換		○	role-play scenario learning, internet research															
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造		○																
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		TOEIC practice, (4 skills learning), listening (20h)																
	事後学修		Extensive reading, using TOEIC reference materials to study outside of class, presentation preparation and interview practice, resume preparation. (30h)																
	想定時間合計		50																
教科書		Students will be notified about the text on the first day of class.																	
参考書		Get that Job (BBC): http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/business/getthatjob/ Talking Business (BBC): http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/business/talkingbusiness/ ※Students should have the Oxford Business English Dictionary.																	
成 績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	Project / Job interview						30%	○	○		○								
	Unit test						30%	○											
	Moodle assignments						30%	○	○										
	Active participation						10%												
Students will be evaluated based on handing in a number of TOEIC-style online homework assignments via Moodle. Additionally, students will create a resume, cover																			
注意事項		-Students who are absent for more than 5 classes will automatically receive an F -This is a blended course (a portion of the classes will be held online via Zoom) -A laptop computer is required in all classes (online or face-to-face)																	
備考																			
リンク																			
		URL																	
担当教員の 実務経験の 有無		○																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K343R402		現代英・米社会論 (Contemporary American Social Science)					地域システム学科 地域システム学科		対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択		2	2,3,4	経	後期	火3	日本語	英語	単独								
担当教員	氏名 朝美 淑子																
	E-mail y-asami@oita-u.ac.jp 内線 7731																
授業の概要	本講義の目的は、現代英・米社会における文化的な特徴や考え方について理解を深めることを目指す。特に、アメリカ・イギリスにおける移民問題や格差社会、銃規制問題などの様々な社会問題などについてディスカッションなどを通し理解を深めていくことをねらいとしている。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7		
目標1	教材の英文の語彙、表現を理解することができる								○								
目標2	教材の要旨を日本語もしくは英語で説明することができる								○	○							
目標3	与えられた議題に対して自分の意見を英語で述べるができる								○	○	○	○		○			
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)									2	2	4	1		1			
授業の内容																	
1	オリエンテーション「アメリカとイギリスの社会論とは」、授業の構成、課題についての説明など																
2	アメリカという国の成り立ちを知る。キリスト教と世界(1)																
3	キリスト教と世界(2) 今日の世界でのキリスト教の影響はどこにあるだろう																
4	銃社会におけるアメリカの葛藤、アメリカの銃社会についての問題点について																
5	薬物社会におけるアメリカ等の国々 ロサンゼルス の現在																
6	アメリカにおける遺伝子組み換えによる技術革新																
7	アメリカの黒人差別と奴隷制度について(1)																
8	アメリカの黒人差別と奴隷制度について(2)																
9	イギリスにおける階級制度について、イギリスの新しい7つの階級制度について考える。																
10	イギリスの食事の変化についてー植民地政策と共に考えるー植民地化の功績と罪科																
11	イギリスで生まれた作家たちの作品(1)、ドラマから見る当時のイギリスの階級について																
12	イギリスで生まれた作家たちの作品(1)、古典文学から見る当時のイギリスの思想について																
13	自分たちが興味を持った内容、もしくはイギリスやアメリカに関心があることを話し合おう																
14	調査研究、発表準備(研究方法等の説明)																
15	イギリスとアメリカについて発表会																
ニア シ ン ク グ レ ー ド イ ブ ラ ー	A:知識の定着・確認		○	ディベートやディスカッションではグループ活動を行い、自分たちで資料や意見をまとめていく。 積極的に海外の社会事情についての書籍を読んだりして得た知識を講義で利用していく				エ ス の 夫 の 他 の	視覚教材の利用								
	B:意見の表現・交換		○														
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造		○														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		配付資料(教材)や参考文献等を事前に読む(15h)。ディスカッション・ディベートの準備をする(10h)。小テストの準備をする(10h)														
	事後学修		小テストの復習をする(15h)。与えられた議題に関してのレポートを作成する(10h)。														
	想定時間合計																
教科書		教科書は指定しない。授業中にプリントを配布する。															
参考書		必要な参考書は授業中に別途指示する。															
成績 評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	各授業のコメント						20%										
	プレゼンテーション(最後)						50%										
	グループディスカッション(講義中)						30%										
注意事項		Moodleで資料を配布することがあります															
備考																	
リンク																	
	URL																
担当教員の 実務経験の有無		○															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
K343R404		現代英語論 (Contemporary English)					地域システム学科 地域システム学科		対面										
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態										
選択		2	1・2・3・4	経	前期	金3	日本語		単独										
担当教員	氏名 平野 あかり																		
	E-mail 内線																		
授業の概要	英語圏の言語及び文化を概観しつつ、第一言語、第二言語及び外国語としての英語についての理解と知識を深め、異文化コミュニケーションに生かすことを目指す。																		
具体的な到達目標											DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	英語についての基礎的な知識や技能を発表及び振り返り活動において活用することができる										○								
目標2	文献から得た知識や他者の意見を理解した上で自らの意見を論理的に表現でき、多様な人々と円滑に相互理解を図ることができる											○							
目標3	扱うトピックに関して独自の視点で課題や問いを提示し、他者と協働して課題や問いを解決することができる												○						
目標4	社会規範及び本授業の規範に則り、他の受講生に配慮した行動ができる													○					
目標5	多様な文化及び価値観を理解し、尊重することができる														○				
目標6	学びたい事項を定め、目標を設定し、高い学習意欲と探究心を持って主体的に学修することができる															○			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
各DPへの関連度 (計10)											2	2	2	1	2	1			
授業の内容																			
1	オリエンテーション																		
2	英語の広がり①英語とはどんな言語か、英語の語源																		
3	英語の広がり②アメリカ英語とイギリス英語、World Englishes																		
4	英語の広がり③欧州と日本における英語教育																		
5	ことばとしての英語①辞書の種類と活用法、つづりと発音																		
6	ことばとしての英語②接辞、数の読み方																		
7	ことばとしての英語③ことばと文化、しぐさの表現																		
8	ことばとしての英語④オノマトペ、和製英語																		
9	英語の使い方①自己紹介、プレゼンテーション																		
10	英語の使い方②ディベート、エッセイ・ライティング																		
11	英米の文化①聖書、ギリシャ・ローマ神話、詩																		
12	【オンデマンド型遠隔授業】英米の文化②英語の名スピーチ、名プレゼンテーション																		
13	英米の文化③ことば遊び、ジョーク、ことわざ																		
14	英米の文化④伝統的音楽、ロック・ポップス																		
15	総括																		
フィードバック	A:知識の定着・確認	○ 各回の発表者がテキストの内容を中心に各トピックについてまとめ、発表をする					エ そ 夫 の 他 の												
	B:意見の表現・交換	○ (※)。発表者はトピックに関する議題を提示し、ペアまたはグループで話し合う。テ																	
	C:応用志向	○ キストの予習、発表、話し合いから学んだことをミニレポートまたはコメントとして																	
	D:知識の活用・創造	○ Moodleにて提出する。																	
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	発表担当者は、発表の準備をする。発表担当ではない履修者は、テキストの内容を中心に予習を行う。自分で設定した学習目標をもとに学習に取り組む。																	
	事後学修	学習した内容に関する復習や振り返りを行う。自分で設定した学習目標をもとに学習に取り組む。																	
	想定時間合計	45																	
教科書	『社会人のための英語の世界ハンドブック』酒井志延 ほか編、大修館書店																		
参考書	授業内で適宜案内する。																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	発表						60%	○	○	○									
	平常点 (ミニレポート、フォーラムへの意見投稿、授業への参加態度・貢献度)						40%	○			○	○	○						
10回以上の出席を必要とする。遅刻、早退は2回で1回の欠席とする。授業の進行や他の履修者の受講を妨げる態度 (授業内容に無関係な私語・体調不良等やむを得ない事																			
注意事項	(※) 個人発表かペア・グループ発表かは履修人数によって決定 履修人数等により内容・進度が変わる場合がある。その際は、授業内で変更について連絡する。 Moodle等の学習管理システム上でのミニレポートまたはフォーラム上でのコメント提出をするため、ノートPCを持参する。																		
備考	授業形態は状況に応じて決定する。 発表とグループでの話し合い活動に積極的に参加できることを履修条件とする。																		
リンク																			
	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
K343R405		ヨーロッパ文化論 (European culture)					地域システム学科 地域システム学科		対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態									
選択		2	1, 2, 3, 4	経済学部	前期	木3	日本語		単独									
担当教員	氏名 安田 俊介 (非)																	
	E-mail syasuda@oita-u.ac.jp 内線 7728																	
授業の概要	この授業では、フランスの起源から18世紀末に起こったフランス革命にいたるまでの歴史と文化の流れのアウトラインをたどりながら、合わせてフランスを取り巻く西ヨーロッパ世界の成り立ちとその特徴について、そのつどの時代背景を交えながら説明していきます。																	
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7		
目標1	フランスの歴史と文化、そして西ヨーロッパ世界の本質を理解する									○								
目標2	キーワードと年号を暗記する							○										
目標3	西ヨーロッパ世界を空間と時間の両面から把握する							○										
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度 (計10)								4		6								
授業の内容																		
1	はじめに一授業の全体の流れの説明																	
2	フランスの基本情報																	
3	ケルト文化																	
4	キリスト教の歴史と文化																	
5	フランク王国ーヨーロッパ連合の母胎としての																	
6	中世ヨーロッパの世界1																	
7	中世ヨーロッパの世界2																	
8	ルネサンスと宗教改革																	
9	絶対王政期のヨーロッパ1																	
10	絶対王政期のヨーロッパ2																	
11	啓蒙期のヨーロッパ1																	
12	啓蒙期のヨーロッパ2																	
13	フランス革命と国民国家の創出1																	
14	フランス革命と国民国家の創出2																	
15	まとめ																	
ラーニング エッセンス マップ	1:知識の定着・確認		授業の際に関連する文献等の情報を示します。積極的にそれらを活用してください。					エ そ 夫 の 他 の	必要に応じて、年表・地図等を配布し、西ヨーロッパ世界の成り立ちとその歴史を立体的に把握できるように配慮します。									
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向	○																
	D:知識の活用・創造																	
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	シラバスを参考にして、毎回の授業の前に高校時に使用した世界史Aあるいは世界史Bの教科書の該当箇所を予め読んでおいてください。(計 22.5 h)																
	事後学修	授業のノートを必ず読み直して、どこがポイントなのか、大切なキーワードや年号は何なのかを考え、できるだけ暗記する習慣を身につけてください。(計22.5 h)																
	想定時間合計	45																
教科書	プリントを配布します。																	
参考書	授業の理解を深めるための文献はそのつどとりあげますが、あらかじめ明石和康『ヨーロッパがわかる一起源から統合への道のり』岩波ジュニア新書、2013年を読んでおくことを勧めます。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法							割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業への取り組み							40%										
	学期末試験(筆記)							60%										
注意事項	遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用等はきびしくチェックします。																	
備考	ヨーロッパの歴史や文化に関心を持っていて、この機会に色々な本を読みたいと考えている学生を歓迎します。																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式						
K532R312		地域文化資源論 (Ethnographic Study on Rural Japan)					メジャー専門科目 地域研究メジャー科目			対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	2,3,4	経済	前期	木4	英語				単独						
担当教員	氏名 久保田 亮															
	E-mail yuralria@oita-u.ac.jp 内線 7730															
授業の概要	We examine various issues that related to life in the Japanese countryside. By engaging with arguments presented in academic papers focusing on the area, you will familiarize yourself with typical socio-political characteristics of the Japanese countryside and analyze the diverse activities people engage in to sustain their way of life in a holistic way.															
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	You will be able to analyze data of various types to understand contemporary socio-economic issues.								○		○		○			
目標2	You will develop a comprehensive understanding of dynamics of the Japanese countryside over time.								○				○			
目標3	You will be able to collaborate with people who have different cultural backgrounds.									○				○		
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度 (計10)									2	2	3		2	1		
授業の内容																
1	Guidance															
2	Anthropological perspective on Culture															
3	Brief History of Japanese Countryside															
4	Depopulation and Aging															
5	Rural-Urban Mobilities															
6	Rural Tourism															
7	Mid-term Exam															
8	Local resources: Landscape and nature															
9	Local resources: Traditional or Invented customs															
10	Local resources: Local delicacies															
11	Local resources: Japanese Spirituality															
12	Local resources: Manga and Animation															
13	Local resources: Religious practices, or Traditional Festivals															
14	Presenting your final paper (1)															
15	Presenting your final paper (2)															
ライク ニテ ンイ グ	A:知識の定着・確認		○	(1) You are asked to make a short presentation on the content and					エ そ 夫 の 他 の	All class materials are stored in the Moodle, allowing every students to access them anytime, anywhere. Information related to the class content will be provided by the instructor as needed.						
	B:意見の表現・交換		○	(2) You are expected to actively participate in discussions with your classmates from diverse cultural backgrounds.												
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造		○													
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		Finish reading assignments and get ready to discuss the issue. (33.75h)													
	事後学修		Reflect on the various problems and look for materials in order to understand them better. (11.25h)													
	想定時間合計		45													
教科書	To be prepared and provided by instructor															
参考書	To be prepared and provided by instructor															
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	Assignment					25%	○		○							
	Contribution to discussions					25%		○	○							
	Mid-term					20%	○	○	○							
	Final Paper					30%	○	○	○							
注意事項	English is the primary language of instruction in this class. Supplemental explanation in Japanese is not provided during the class. A strong willingness to study various issues in English and to actively participate in discussions with your classmate are minimum requirements.															
備考	Class schedule above is tentative.															
リンク																
	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式								
K522R201		地域経営論Ⅰ (Regional ManagementⅠ)					学部基盤科目			対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態							
選択		2	2,3,4	経	前期	水2	日本語				単独							
担当教員	氏名 甲斐 智大																	
	E-mail kaitomo@oita-u.ac.jp 内線 7685																	
授業の概要	高度経済成長期以降、日本では都市部への人口集中と地方における人口減少が進んだ。その結果、都市、地方都市、農村といった異なる特徴をもつ空間が構築され、各地で様々な地域課題が生じることとなった。そこで各地域では地域課題の解決に向けて多様な主体によって様々な形での課題解決が図られている。そもそも地域課題は国家―地域―家族―身体といった各スケール間の重層的な関係性の中で生じるため、この課題の解決に向けたアプローチについて検討する場合、マルチスケールでの分析視角と関係論的な分析視角をもつことが必要となる。そこで本講義では地域差が生じた背景や各地で生じた地域課題の発生メカニズム、課題解決に向けて展開した地域政策への理解を通して、地域経営のあり方について議論する視点を獲得してほしい。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7
目標1	地域差と地域課題が生じるメカニズムについて理論的に説明できる。											○						
目標2	都市、地方都市、農村における地域課題の解決策の特徴について説明できる。											○	○	○	○	○		
目標3	マルチスケールを意識した関係論的な分析視角を身に付けている。											○		○		○		
目標4	地域の抱える課題と空間との関係性に着目して、公正な地域経営の在り方について考察できる。											○	○	○	○	○		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度(計10)												3	1	1	1	4		
授業の内容																		
1	イントロダクション：本講義の位置づけとねらい																	
2	国土開発とスケール1：ナショナル ローカル 身体スケールの相互作用 「国土計画と家族計画」																	
3	国土開発とスケール2：地域的差異の発生メカニズム 「国土計画と石油化学工業」																	
4	住宅開発と都市問題1：住まい空間の変化と都市構造 「戦後住宅政策と住宅すごろく」																	
5	住宅開発と都市問題2：住まい空間の変化と現代的課題の発生メカニズム「ニュータウンの現状と都心回帰」																	
6	都市部における公共サービスの不足とそれへの対応1：公共・市場・家族の関係性について 「保育サービスの市場化と地域的公正」																	
7	都市部における公共サービスの不足とそれへの対応2：サードセクターが果たす役割について「福祉サービスの供給主体としてのNP0」																	
8	地方都市における商店街活性化と創造都市論 「産業構造の転換と中心市街地活性化への展開」																	
9	多様性と地域の創造 「性的少数者の積極的受け入れ政策 新宿2丁目およびシドニーを事例に」																	
10	観光へのまなざしと地方の関係人口創出 「別府・湯布院の湯治文化とテレワーク」																	
11	人口減少地域における地域経営1 「「進撃の日田」まちづくりと地域おこし協力隊」																	
12	人口減少地域における地域経営2 「なりわいづくりへの支援とその課題」																	
13	マルチワーカー制度が人口減少地域で果たす役割1 「公共・市場・協働組合と社会連帯経済																	
14	マルチワーカー制度が人口減少地域で果たす役割2 労働者にとっての意味 「五島市、海士町、東成瀬村、南部町を事例に」																	
15	「地方創生」に関わる諸政策の功罪																	
ラーニングエッセンス	A:知識の定着・確認		○	・日常生活と学びをリンクさせるために、まち歩きを前提としたレポート提出を求める。						エ 夫 の 他 の	・可能な限り身近な事例を取り上げる。							
	B:意見の表現・交換		○	・学生主体の学びを実現するために、ペアワーク等を行う場合がある。														
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		各回の講義終了時に提示するキーワードや事例に関する新聞記事・web情報に目を通しておく。(15h程度)															
	事後学修		提示したキーワードを用いて講義内容の要点を簡潔にまとめる。関連する文献等を理解する。日常生活と講義内容との関係性について考察する(可能な場合は実際に現地を訪問したり、身近な人とお話ししたりしてみるのも良いでしょう)。(30h程度)															
	想定時間合計		45															
教科書	特に指定しない。資料を配布する。																	
参考書	森正人(2019)『豊かさ幻想 戦後日本が目指したもの』(KADOKAWA)中澤高志(2019)『住まいと仕事の地理学』(旬報社) 神谷浩夫(2018)『ベシック都市社会地理学』(ナニヲ出版) 神谷浩夫 梶田真 佐藤正志(2012)『地方行財政の地域的文脈』(古今書院)																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	中間レポート(講義に対するコメントを含む)						50%	○	○	○	○							
	期末試験						50%	○	○	○	○							
注意事項	授業の内容については学生の関心や理解度によって変更する場合がある。																	
備考	本講義を通して、地域社会への関心を高めるとともに、日常生活と学びが結びついていることを理解してほしいと思います。講義内容や身近な事例について教員とのディスカッション希望する方、大歓迎です。積極的に研究室を訪ねてください。																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式							
K522R202		経済地理学Ⅰ (Economic GeographyⅠ)					学部基盤科目			対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態							
選択	2	2, 3, 4	経	前期	金3	日本語				単独							
担当教員	氏名 美谷 薫 E-mail mitani@oita-u.ac.jp 内線 7712																
授業の概要	私たちの身のまわりの経済現象は、そのすがたが地域によって大きく異なっており、また日々変化してきています。本講義では、そのような産業・経済の地域性の実態とそれらが生み出される背景を理解する手がかりとして、地理学的な視点から産業の立地や地域産業の変化について概説していきます。具体的には、地理学全体に共通する基礎的な概念を紹介した後に、農業、工業、商業などについて、伝統的な立地に関する理論、現代日本における産業の地域性、産業を取り巻く環境の変化とそれらへの対応などについて取り上げていきます。																
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	地理学,あるいは経済地理学で用いられる基礎的な概念や分析手法を理解し,活用することができる。									○							
目標2	地図の読み取りや統計資料の分析を通じて,さまざまな経済現象の地域的差異を読み取ることができる。									○							
目標3	さまざまな経済現象の地域的差異とその背景について考察し,的確に表現できる。									○		○		○			
目標4	主題図を中心とした地図表現の基礎を習得し,活用することができる。									○				○			
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)										7		1		2			
授業の内容																	
1	イントロダクション:地理学・経済地理学という学問																
2	地理学の見方・考え方①:地域																
3	地理学の見方・考え方②:景観																
4	地理学の見方・考え方③:環境																
5	農業と地域①:農業立地の理論																
6	農業と地域②:農業地域区分と農業の地域性																
7	農業と地域③:社会環境と農業の変容																
8	工業と地域①:工業立地の理論																
9	工業と地域②:工業地域の構造																
10	工業と地域③:産業集積と空間的分業																
11	商業と地域①:商業立地の理論と商圏																
12	商業と地域②:商業環境の変化と中心商店街																
13	商業と地域③:流通システムの再編と小売業																
14	サービス業と地域																
15	総括																
フィードバックシート	A:知識の定着・確認	○	各回の講義内容に関する作業課題の実施のほか,受講生の数にもよりますが,適宜					エ	毎回,板書と配布資料の説明により講義を進めます。								
	B:意見の表現・交換	○	グループワークなどを実施することがあります。また,フィールドワークを伴う作					そ									
	C:応用志向		業レポートの課題を設定します。					夫									
	D:知識の活用・創造	○						の									
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	講義で取り上げられる項目について,適宜,ニュースなどで最新の状況を確認するとともに,自身の身近な事例について情報収集を行っておいください(10h)。															
	事後学修	ノートや資料などで復習を進めてください。なお,授業時間内に作業課題が終わらなかった場合は,次回講義までに各自で作業を行ってもらうことがあります(15h)。このほか,作業レポートや期末レポートの作成を通じて,講義内容の定着を図るように努めてください(20h)。															
	想定時間合計	45															
教科書	特に指定しません。各回の授業で関連する資料を配布します。																
参考書	講義全体に関連する参考書としては,以下のようなものがあります。その他については,講義中に紹介します。伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著 2020.『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房,ISBN:9784623086917. 経済地理学会編 2020.『キーワードで読む経済地理学』原書房,ISBN:9784562092116. 山本健兒 2005.『新版 経済地理学入門』原書房,ISBN:9784562091058.																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	各回の講義での小課題の提出と作業成果						40%	○	○	○	○						
	作業レポート						20%	○	○	○							
	期末試験(レポートにする場合があります)						40%	○	○	○	○						
注意事項	各回の講義で簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を行うことがありますので,指示があった際には,色鉛筆(12色程度),定規,電卓(スマートフォンのアプリで構いません)を用意してください。																
備考	教養科目の「地理学の見方・考え方」や経済学部の「地域学入門」(美谷担当回)と一部で内容が重複します。履修条件は特にありませんが,全体として作業量の多い講義ですので,その点はあらかじめご承知おきください。																
リンク																	
	URL																
担当教員の 実務経験の有無	○																
教員の 実務経験	地方公共団体職員																
実務経験を いかした教育内容	講義のなかの一部項目に限られますが,地方公共団体職員の経験のある教員が,現場での実態を踏まえながら,地域・都市政策の内容や課題について解説します																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
K532R3I3		経済地理学Ⅱ (Economic Geography II)					メジャー専門科目 地域研究メジャー科目		対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択		2	2, 3, 4	経	後期	金3	日本語		単独							
担当教員	氏名 美谷 薫 E-mail mitani@oita-u.ac.jp 内線 7712															
授業の概要	私たちの身のまわりの地域のすがたは、経済現象をはじめとするさまざまな要素によって、日々大きく変化してきています。本講義では、経済現象の展開が都市、農村、山村といったさまざまな地域に及ぼした影響、また、それらに対する地域運営の主体の対応について、日本の高度経済成長期以後の事例を中心に上げていきます。「経済地理学Ⅰ」が経済現象そのものを対象とするのに対して、本講義ではより広義の「経済地理学」の内容を中心としていきます。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	地理学,あるいは経済地理学で用いられる基礎的な概念や分析手法を理解し,活用することができる。								○							
目標2	地図の読み取りや統計資料の分析を通じて,さまざまな地域変容の実態を読み取ることができる。								○							
目標3	さまざまな地域変容の背景とそれらへの対応のあり方について考察し,的確に表現できる。								○		○					
目標4	主題図を中心とした地図表現の基礎を習得し,活用することができる。								○				○			
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									7		1		2			
授業の内容																
1	イントロダクション															
2	地域と人口①:人口の地域性と人口構成															
3	地域と人口②:人口移動とライフコース															
4	村落の変容①:村落社会の基盤															
5	村落の変容②:経済成長と村落の変容															
6	都市の変容①:都市の概念と都市域															
7	都市の変容②:都市化と都市システム															
8	都市の変容③:都市の内部構造															
9	都市の変容④:都市問題と都市政策															
10	地域と行政・政策①:地域社会の変化と公的セクターの拡大															
11	地域と行政・政策②:地方行財政と市町村合併															
12	地域と行政・政策③:少子高齢化と福祉サービスの地域差															
13	地域と行政・政策④:人口減少社会と生活インフラ															
14	地域と行政・政策⑤:地域振興と観光開発															
15	総括															
ラフ アイク ニテ ンイ グブ	A:知識の定着・確認	○	各回の講義内容に関する作業課題の実施のほか,受講生の数にもよりますが,適宜					エ そ 夫 の 他 の	毎回,板書と配布資料の説明により講義を進めます。							
	B:意見の表現・交換	○	グループワークなどを実施することがあります。													
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造	○														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	講義で取り上げられる項目について,適宜,ニュースなどで最新の状況を確認するとともに,自身の身近な事例について情報収集を行っておいください(10h)。														
	事後学修	ノートや資料などで復習を進めてください。なお,授業時間内に作業課題が終わらなかった場合は,次回講義までに各自で作業を行ってもらうことがあります(15h)。このほか,作業レポートや期末レポートの作成を通じて,講義内容の定着を図るように努めてください(20h)。														
	想定時間合計	45														
教科書	特に指定しません。各回の授業で関連する資料を配布します。															
参考書	講義全体に関連する参考書としては,以下のようなものがあります。その他については,講義中に紹介します。伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著 2020.『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房,ISBN:9784623086917. 神谷浩夫・梶田 真・佐藤正志・栗島英明・美谷 薫編著 2012.『地方行財政の地域的文脈』古今書院,ISBN:9784772231428.経済地理学会編 2020.『キーワードで読む経済地理学』原書房,ISBN:9784562092116.															
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	各回の講義での小課題の提出と作業成果		40%	○	○	○	○									
	作業レポート		20%	○	○	○	○									
	期末試験(レポートにする場合があります)		40%	○	○	○	○									
注意事項	各回の講義で簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を行うことがありますので,指示があった際には,色鉛筆(12色程度),定規,電卓(スマートフォンのアプリで構いません)を用意してください。															
備考	履修条件は特にありませんが,全体として作業量の多い講義ですので,その点はあらかじめご承知おきください。															
リンク																
	URL															
担当教員の 実務経験の 有無	○															
教員の実務 経験	地方公共団体職員															
実務経験を いかした教 育内容	地方公共団体職員の経験のある教員が,現場での実態を踏まえながら,地域・都市政策の内容や課題についても取り上げていきます。															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
K531R317		地域分析論Ⅰ (An Introduction to Area / Regional Studies Ⅰ)					メジャー専門科目 地域研究メジャー科目		対面										
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態								
選択		2	1, 2, 3, 4	経済学部	前期	金2	日本語				単独								
担当教員	氏名 城戸 照子																		
	E-mail tkido@oita-u.ac.jp 内線 7946																		
授業の概要	19世紀的「国民国家」(nation state)を越境した広義の「地域」が成立する必然性と、その構築に必要な条件を考察する。具体的事例として東南アジア諸国の国家形成史と、広域経済共同体としてのASEAN形成史を考える。																		
具体的な到達目標									DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7
目標1	東南アジア地域の経済的地誌を学ぶ(資源地図を含む)									○	○	○							
目標2	東南アジア地域の社会経済事情の基礎知識を確かなものにする。									○	○	○							
目標3	東南アジア地域の多民族・多文化・多言語・多宗教の各国形成史を知る									○	○	○							
目標4	ASEANの成立・確立・発展の歩みを知る									○	○	○							
目標5	東南アジア地域の日・米・中・豪との政治経済的関係史を整理する									○	○	○							
目標6	ASEANのこれからと東南アジア諸国のこれからを考える									○	○	○							
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
各DPへの関連度(計10)									5	1	4								
授業の内容																			
1	導入：東南アジア地域はいつ「東南」アジアになったか																		
2	東南アジア地域の古代史と「大航海時代」＝「交易の時代」																		
3	ヨーロッパによる植民地化の過程とアジア域内市場での東南アジアの経済成長																		
4	ミャンマー&マレーシア&シンガポール：英領マラヤ(シンガポール含む)・英領ボルネオ・英領ビルマとその独立																		
5	インドネシア：蘭領東インドとその独立																		
6	ベトナム：仏領インドシナと対日関係・対仏独立戦争からベトナム戦争へ																		
7	フィリピン：スペインのフィリピン支配(対中国貿易商品の開発)とアメリカ合衆国領へ																		
8	第二次世界大戦中の、東南アジアでの日本の活動																		
9	第二次世界大戦後の植民地東南アジアの独立																		
10	戦後の冷戦構造化での東南アジアとベトナム戦争終結																		
11	東南アジア各国の開発主義と親米反共主義から、ASEANが誕生する？																		
12	1970年代以降の「開発独裁」による経済発展(タイ・フィリピン・インドネシア)																		
13	多民族国家としてのマレーシアと都市国家シンガポールの独立																		
14	カンボジア和平(ベトナム・ラオス・カンボジアの関係)とASEAN10への発展																		
15	結論：東南アジア地域を、ASEANはASEAN諸国としてまとめていけるか																		
ライク ニテ ンイ グブ	A:知識の定着・確認		○	新聞記事などの資料を提示し、ニュースの前後の事情も含め、理解を深める。事前に指定して重要なキーワードを調べてくる課題を出し、予習重視での授業を行う。					エ そ 夫 の 他 の	講義中にニュース映像を紹介して現状を知る資料とする。報道からキーワードを聴き取るシートなどを配布する。									
	B:意見の表現・交換																		
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造																		
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		教科書の指定ページを読み、重要だと思われるキーワードをノートに書き、予習として調べる(15h)。時事ニュース等に関心を持ち、その月の東南アジア関連ニュースのトピックスをノートに記録する(15h)。																
	事後学修		講義中の説明資料から、事前を選んだキーワードの説明に追加して自分でまとめる(15h)。毎回、ムードルの授業アンケート票に回答するかたちで、時事ニュースについての考えを書く(15h)。																
	想定時間合計																		
教科書		古田元夫(2021)『東南アジア史10講』、岩波書店(岩波新書1883)。																	
参考書		授業中に文献目録を配付する。『現代インドネシアを知るための64章』などの明石書店のエリアスタディーズのシリーズを中心とする。																	
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	中間試験(6月末に実施予定)知識の定着を問う問題を多く出題。						50%	○	○	○									
	学期末試験 論述形式で考察の深化を問う問題を出題。						50%				○	○	○						
成績評価は中間試験50点(もしくは中間レポート50点)、学期末試験50点を総合して評価する。																			
注意事項		対面を原則とするが、オンライン授業(ZOOM)となることがある。資料配布やアンケート送信などでmoodle(ムードル)を利用するので、授業前後に必ずムードルのレッスンを確認すること。また、手元で資料を確認したい場合は、教室にPCを持ってくること。																	
備考		高校で世界史A、世界史B、歴史総合、世界史探求、を履修していなくても受講できるが、必要な基礎的知識の整理は各自で行うこと。その際必要な文献については、講義中に紹介する。																	
リンク																			
		URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K531R318		地域分析論Ⅱ (An Introduction to Area / Regional Studies Ⅱ)						メジャー専門科目 地域研究メジャー科目		対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態								
選択		2	1, 2, 3, 4	経済学部	後期	金2	日本語			単独								
担当教員	氏名 城戸 照子																	
	E-mail tkido@oita-u.ac.jp 内線 7946																	
授業の概要	この講義では、「国民国家」(nation state)に内包される「狭義」の「地域」を取り上げる。対象とするのは主として日本なので、特徴ある「地域」の地方自治体の取組や政策を参照する。「地域」の国際化および自治体の「移民政策」を「外国人とともに学び働き生活する方針と具体的取り組み」と広くとらえ、少子高齢化の日本社会の今後の課題を考える材料や条件に気づくことをねらいとする。																	
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7
目標1	「多文化共生」の理念を知る。										○	○	○					
目標2	外国人と一緒に働く時の「外国人労働者」問題と法改正の知識を知る。										○	○	○					
目標3	「定住外国人」に地方自治体が働きかける必要性と具体例を考える。										○	○	○					
目標4	日本社会の「移民統合政策」を考える										○	○	○					
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度(計10)											5	1	4					
授業の内容																		
1	「多文化共生」のスローガンを知る。																	
2	「多文化主義」と「多文化共生」の違いを、国際社会学の観点から考える。																	
3	日本における外国人の在留資格と居住実態を知る。																	
4	日本の留学生30万人計画と労働人口減少の関係を考える																	
5	少子高齢化によって、本当に「地方消滅」の時代が来るのか、問う。																	
6	外国人労働者増加の経済的影響を考える。																	
7	外国人労働者増加の社会的影響を考える。																	
8	技能実習生から育成就労制度への移行を問い直す。																	
9	出身国によって異なる来日時期を考える。																	
10	3K職場と外国人労働力を考える。																	
11	日系南米人と「地域」社会の関係の実例を探す。																	
12	人の移動について、日本と米・オーストラリアなどの移民国家を比較する。																	
13	移民の諸権利について、ヨーロッパの例に学ぶ。																	
14	日本語教育のこれからを考える。																	
15	これからの「地域」が「国家」の枠を超えてグローバルに展開するのを考慮する必要性を知る。																	
ライク ニ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認		○	新聞記事などをコピー配布する。また、官公庁の公式ウェブサイト検索を宿題として、正確な統計データにアクセスするリテラシーを磨く。				エ そ 夫 の 他 の	講義中にニュース映像を紹介して現状を知る資料とする。報道からキーワードを聴き取るシートを配布する。									
	B:意見の表現・交換																	○
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		教科書の指定ページを読み、重要だと思われるキーワードをノートに書き出す。(15h)教科書のキーワードについて、官公庁のデータから制度を理解する(20h)。															
	事後学修		講義中の説明年料から、事前を選んだキーワードの説明を自分でまとめる(2h)。また、毎回、ムードルを通じて授業アンケート・質問票に回答を送信し、授業の復習をする(8h)。															
	想定時間合計		45															
教科書	永吉 希久子著(2020)『移民と日本社会』中央公論新社																	
参考書	授業中に、参考文献、参考WebサイトURLを紹介する。																	
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法							割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト。基本的な知識が正確に理解されているかを確認する。							50%	○	○								
	学期末試験で、自分の考えを論述できるかどうか評価する。							50%			○	○						
小テストの集計もしくは学期中の中間テスト(50点満点)と学期末試験(もしくは学期末レポートでいずれも50点満点)の成績を総合して評価する。																		
注意事項	対面授業とする。Moodle(ムードル)を利用し、アンケート送信やURLから記事等を検索するので、授業前後に必ず確認すること。またムードル掲載の資料について、授業中に確認したい場合はPCを教室に持ってくること。																	
備考	世界史A、世界史B、歴史総合、世界史探求、を履修していなくても受講できるが、必要な基礎知識の整理は各自で行うこと。発信元が不明なインターネット上の情報には、不正確なものもある。検索の際には、引用元となるWebサイトが信頼できる情報源か否かを、常に確認すること。																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)				授業形式							
K532R319		地域構造論 (Regional Systems)						メジャー専門科目 地域研 究メジャー科目				対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語				担当形態						
選択		2	2,3,4	経済学部	後期	火2	日本語						単独						
担当教員	氏名 宮町良広																		
	E-mail ymiya@oita-u.ac.jp 内線 7684																		
授業の概要	【地域経済の構造や活性化を学習・研究するための基本的論点を解説します】 スポーツに強いチームと弱いチームがあるように、地域活性化にも「成功」する地域と「失敗」する地域があります。両者を分けるものはいったい何でしょうか。本講義では、経済活性化の視点から日本の地域構造と地域政策について学習します。 講義を中心に、小テストとセットで進めます。毎回の講義、テキストの理解、小テストに備えた学習、返却答案による弱点チェックを繰り返すことで、卒業後も使える学習成果が身に付きます。																		
具体的な到達目標									DP等の対応(別表参照)										
目標1	日本の地域構造をとらえるための基本的考え方を理解し、文章で説明できる								1	2	3	4	5	6	7				
目標2	日本の地域構造の全体像を理解し、文章で説明できる								○	○									
目標3	地域政策と経済活性化の関係について理解し、文章で説明できる								○		○								
目標4	教員自身の目標「難しいことをわかりやすく、わかりやすいことをおもしろく、おもしろいことを深く」(作家・井上ひさし)												○						
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
各DPへの関連度(計10)									4	2	2		2						
授業の内容																			
1	ジャンプ・スタート：本授業の活用法, 就職活動に役立つキャリア学習について																		
2	人口からみた日本の地域構造																		
3	人口からみた日本の地域構造(続き)																		
4	産業立地と日本の地域構造																		
5	産業立地と日本の地域構造(続き)																		
6	小テスト#1, 国土政策の類型化																		
7	日本の国土政策の変遷																		
8	日本の国土政策の変遷(続き)																		
9	新産業都市計画と九州の工業																		
10	新産業都市計画と九州の工業(続き)																		
11	小テスト#2, 大分市の産業経済構造																		
12	大分市の産業経済構造(続き)																		
13	一村一品運動の軌跡																		
14	温泉観光と地域づくり																		
15	ロケット産業と地域経済																		
ラー ィク ニ ン ィ グ ブ	A:知識の定着・確認		○	小テスト、対策ノート作成、グループ・ペアでの意見共有、質疑応答と全体共有、採点済みの返却答案による学習振り返り、オンライン課題					エ そ 夫 の 他 の	キャリア学習による主体的な学びの喚起、小テストの得点分布や採点講評の開示による振り返りの促進									
	B:意見の表現・交換		○																
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造																		
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		教科書や指定参考文献による予習(20h)。																
	事後学修		授業ノートと文献内容を自分の言葉で整理したテスト対策ノートの作成(20h)。採点済みの返却答案による復習(5h)。																
	想定時間合計		45																
教科書		文献を配布するか、指定します。指定文献は各自プリントしてください。																	
参考書		地図帳(中学や高校で使用したもので可)を持参してください。																	
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法							割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	小テスト(3回)。授業で学習した全ての内容を対象とします。答案は採点後に返却します。							100%	○	○	○								
小テストの合計得点が60%以上で合格。合格点に達しないが学習意欲のある人には、リベンジ・テストを実施することがあります。																			
注意事項		「地域学入門」の理解を前提とします。																	
備考		学問は「将来の自分への投資」です。本気で勉強したい、就業力を向上させたいと思う人に適した授業です。オフィスアワー(質問や相談を研究室で受け付ける時間)も利用してください。																	
リンク																			
		URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式							
K522R203		憲法Ⅰ (ConstitutionⅠ)					学部基盤科目			対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択		2	2,3,4	経	前期	月3	日本語			単独							
担当教員	氏名 青野 篤																
	E-mail aaono@oita-u.ac.jp 内線 7726																
授業の概要	憲法Ⅰでは、日本国憲法が保障する各種の人権の意義・内容・限界に関連する学説・判例を踏まえて、講義します。この講義を通して、日本社会で生起しているさまざまな人権問題を日本国憲法の視点から理論的・客観的に分析できるように、その土台となる基礎的な知識と考え方を体系的に身につけることをねらいとします。																
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	日本国憲法がどのような人権をなぜ保障しているか説明できる。							○									
目標2	日本国憲法が保障する各種の人権の内容と限界を説明できる。							○		○	○						
目標3	日本国憲法が保障する各種の人権に関する学説の対立点を説明できる。							○		○	○						
目標4	日本国憲法が保障する各種の人権に関する重要判例の概要を説明できる。							○		○	○						
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)								4		3	3						
授業の内容																	
1	職業の自由																
2	財産権																
3	思想・良心の自由																
4	表現の自由(1)																
5	表現の自由(2)																
6	信教の自由																
7	学問の自由																
8	生存権																
9	教育権																
10	労働権																
11	受益権																
12	幸福追求権																
13	法の下での平等																
14	人権の享有主体																
15	人権の到達範囲																
ラーニング・コンテイング	A:知識の定着・確認	○	公務員試験問題を活用した小テストを複数回実施し、知識の定着を確認します。					工夫の他の									
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	教科書の該当箇所を精読する(15h)。															
	事後学修	配布プリント、教科書、小テストを用いて復習する(30h)。															
	想定時間合計	45															
教科書	渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法Ⅰ人権〔第9版〕』(有斐閣,2025年) ISBN:978-4641222441 ※受講者は、教科書販売期間中に各自で購入して下さい。																
参考書	主要なものは、1回目の講義の際にまとめて紹介します。その他、必要に応じて、講義中に紹介します。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト						40%	○	○	○	○						
	期末試験						60%	○	○	○	○						
注意事項	・憲法を全体として理解するために、憲法Ⅱとあわせて受講することが望ましい。 ・遅刻、途中退出、私語、携帯電話の使用等、授業に集中できる環境を乱す行為は厳禁とします。 ・レジュメ等の資料の再配布は原則として行いません。																
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
K532R323		憲法Ⅱ (Constitution Ⅱ)					メジャー専門科目 地域研究メジャー科目		対面						
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択		2	2,3,4	経	後期	月3	日本語		単独						
担当教員	氏名 青野 篤														
	E-mail aaono@oita-u.ac.jp 内線 7726														
授業の概要	憲法Ⅱでは、国会・内閣・裁判所等の日本国憲法の統治機構とその基本原理に関する重要論点について、学説・判例を踏まえて、講義します。この講義を通して、現在の日本の憲法政治のあり方を日本国憲法の視点から理論的・客観的に分析できるように、その土台となる基礎的な知識と考え方を体系的に身につけることをねらいとします。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	国会・内閣・裁判所の基本的な仕組みとその権限について説明できる。						○								
目標2	法の支配，立憲主義，権力分立などの統治機構の基本原理について説明できる。						○		○	○					
目標3	統治機構の重要論点に関する学説の対立点を説明できる。						○		○	○					
目標4	統治機構に関する重要判例の概要を説明できる。						○		○	○					
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度 (計10)							4		3	3					
授業の内容															
1	司法権の意義と限界 (1)														
2	司法権の意義と限界 (2)														
3	司法権の独立・組織・権能														
4	違憲審査制														
5	国会と内閣														
6	国会の権限														
7	内閣の権限														
8	国会と内閣の内部組織														
9	法の支配・権力分立														
10	国民主権														
11	有権者と国会														
12	選挙制度と選挙権														
13	天皇														
14	戦争の放棄														
15	地方公共団体の原理・組織・権能														
ライクニテング	A:知識の定着・確認	○	公務員試験問題を活用した小テストを複数回実施し，知識の定着を確認します。					エ そ 夫 の 他 の							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	教科書の該当箇所を精読する (15h)。													
	事後学修	配布プリント，教科書，小テストを用いて復習する (30h)。													
	想定時間合計														
教科書	渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法2 統治〔第9版〕』（有斐閣，2025年） ISBN:978-4641222458 ※受講者は，教科書販売期間中に各自で購入して下さい。														
参考書	主要なものは，1 回目の講義の際にまとめて紹介します。その他，必要に応じて，講義中に紹介します。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	小テスト		40%	○	○	○	○								
	期末試験		60%	○	○	○	○								
注意事項	・憲法を全体として理解するために，憲法Iとあわせて受講することが望ましい。 ・遅刻，途中退出，私語，携帯電話の使用等，授業に集中できる環境を乱す行為は厳禁とします。 ・レジュメ等の資料の再配布は原則として行いません。														
備考															
リンク															
	URL														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式							
K522R204		民法Ⅰ (Civil LawⅠ)					学部基盤科目			対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態							
選択	2	2,3,4	経	前期	木4	日本語				単独							
担当教員	氏名 亀岡 鉦平 E-mail kkameoka@oita-u.ac.jp 内線 7703																
授業の概要	私たちは日常生活の中で法律について意識することはほとんどありませんが、例えば日々の買い物や約束などの関係は、法律、特に民法に基づく関係として説明することもできます。この講義では、民法全体にわたる共通原則である民法総則について内容の解説を行います。講義に当たっては、民法の全体像(体系性)を意識するとともに、問題となる法的課題がなぜ発生することになったのかその社会背景にも目を向けていきたいと思います。民法総則の各テーマに即して、法的な思考力を身につけることを目標とします。																
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	論理的な思考に基づいて意見を表明することができる。										○						
目標2	疑問を発見して、自分で解決することができる。										○						
目標3	法律に関する情報を調べることができる。								○								
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)									2			8					
授業の内容																	
1	はじめに(民法の全体像、授業の進め方)																
2	自然人①(自然人とは何か、権利能力・意思能力・行為能力)																
3	自然人②(成年後見制度)																
4	法人																
5	物、法律行為																
6	意思表示①(心裡留保・虚偽表示)																
7	意思表示②(虚偽表示(続き))																
8	意思表示③(錯誤)																
9	意思表示④(詐欺・強迫)																
10	法律行為の内容規制、無効・取消し																
11	代理①(代理の要件)																
12	代理②(無権代理、表見代理)																
13	代理③(無権代理人の責任・代理権濫用等)																
14	条件・期限・期間、時効①(時効とは、完成猶予・更新)																
15	時効②(取得時効・消滅時効)																
フィードバックシート	A:知識の定着・確認	○	毎回授業の終わりに、コメントペーパーとして感想や疑問等を書いて提出しても										エ そ 夫 の 他 の	教科書をベースとしたレジュメを配布します。授業はこのレジュメに沿って行います。			
授業時間外学修の内容と想定時間	B:意見の表現・交換	○	らう予定です。授業の内容を振り返る機会として活用してください。寄せられた														
	C:応用志向		疑問等に対しては、次回以降の授業で適宜応答していきたいと考えています。														
	D:知識の活用・創造	○															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	予習(教科書の通読、疑問点の発見):15時間															
	事後学修	復習(疑問点の解消など):30時間															
	想定時間合計	45															
教科書	山本敬三監修・香川崇・竹中悟人・山城一真『民法Ⅰ—総則—(有斐閣ストウディア)』(有斐閣、2021年、ISBN 9784641150089)、六法は要持参																
参考書	判例学習教材として佐久間毅他編『判例講義民法Ⅰ—総則・物権—(第3版)』(勤草書房、2024年、ISBN 9784326404360)、松本恒雄他編『判例プラクティス民法Ⅰ—総則・物権—(第2版)』(信山社、2022年、ISBN 9784797226379)、応用的教科書として小野秀誠他『新ハイブリッド民法Ⅰ—民法総則—(第2版)』(法律文化社、2023年、ISBN 9784589042934)を挙げておきます。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験(論述式)						85%	○	○	○							
	毎回の授業に対するコメントペーパーの提出						15%	○	○								
注意事項	公務員試験や資格試験の役に立つとは思いますが、試験対策に特化した授業ではありません。試験では問われない内容にも多く触れます。この授業の目標は、法律の試験問題が解けるようになることではなく、中長期的に役に立つ論理的思考力を養成することです。																
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式									
K532R324		民法Ⅱ (Civil Law Ⅱ)					メジャー専門科目 地域研究メジャー科目			対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態								
選択		2	2,3,4	経済	後期	月1	日本語				単独								
担当教員	氏名 秋山 智恵子 (Chieko AKIYAMA) E-mail akiyama-chieko@oita-u.ac.jp 内線 7704																		
授業の概要	「物権法」(民法第175条～第398条の22)に関する基礎的な知識および重要論点に関する判例・学説の把握を目的とする。																		
具体的な到達目標									DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7
目標1	各条文の趣旨・要件・効果を理解する。								○										
目標2	判例・学説を理解する。											○							
目標3	関連する諸制度を理解する。										○								
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
各DPへの関連度(計10)									5		2	3							
授業の内容																			
1	導入																		
2	物権変動(1) 物権変動概論																		
3	物権変動(2) 不動産物権変動																		
4	物権変動(3) 動産物権変動																		
5	占有権																		
6	所有権(1)																		
7	所有権(2)																		
8	用益物権－地上権・永小作権・地役権・入会権																		
9	担保物権概論																		
10	約定担保物権(1) 抵当権①																		
11	約定担保物権(2) 抵当権②																		
12	約定担保物権(3) 抵当権③																		
13	約定担保物権(4) 質権																		
14	非典型担保物権																		
15	法定担保物権－留置権・先取特権																		
フ ァ ィ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認				裁判で実際に争われた事例等を提示して、関連する条文を適用できるか確認しま				エ ソ 夫 の 他 の										
		B:意見の表現・交換				す。													
		C:応用志向																	
		D:知識の活用・創造																	
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		予習・復習等、講義内容の定着に必要な学習を行って下さい(30h)。																
	事後学修		新聞などで身近な法律問題に触れ、関心を持って下さい(15h)。																
	想定時間合計																		
教科書		必ず小型の六法を持参して下さい(詳細は、開講時に指示します)。																	
参考書		淡路剛久他著『民法Ⅱ―物権[第5版]』(有斐閣、2022年)。講義では、必要に応じてレジュメ等の資料を配布します。																	
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	学期末試験(持ち込み不可)						50%												
	小テスト・レポート課題						50%												
注意事項		講義中、他の学生の受講の妨げになる行為を禁止する。「法学入門」、「民法Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。																	
備考		公務員試験や各種資格試験の勉強のために、ただ判例・通説を暗記するというだけではなく、「法」という小さな視点から「社会」という大きな視野を展望するということを意識して欲しいと思います。																	
リンク																			
		URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】 / (分野)			授業形式							
K343R428		租税法 (Tax Law)						地域システム学科 地域システム学科			対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態							
選択		2	2, 3, 4	経	後期	月2	日本語				単独							
担当教員	氏名 田代 浩																	
	E-mail tashiro-hiroshi@oita-u.ac.jp 内線 6752																	
授業の概要	・租税は、各税法に課税要件等を詳細に規定していますが、あらゆる経済活動に関連することから、それらの規定内容は非常に細分化しています。この講義では、それらの細かい規定の知識の習得ではなく、各税法の立法趣旨や基本的な仕組みについて習得することを目標とします。 ・また、租税は、経済社会の構造変化を踏まえ、日々、そのあり方を見直していく必要があるものです。そのため、直近の経済社会の構造変化を踏まえ、これからを担う若い皆さんとともに、今後の租税のあり方について考えることを併せて目標とします。																	
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7
目標1	各税法の立法趣旨や基本的な仕組みについて説明できる。											○						
目標2	経済社会の構造変化を踏まえた今後の租税のあり方について、自分なりの考えを説明できる。														○			
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度 (計10)												6			4			
授業の内容																		
1	租税に関する基本事項																	
2	経済社会の構造変化																	
3	租税法の基本的な考え方																	
4	所得税法 (1)																	
5	所得税法 (2)																	
6	所得税法 (3)																	
7	税務行政の現状と課題 (外部講師：予定)																	
8	法人税法																	
9	消費税法 (1)																	
10	消費税法 (2)																	
11	国際課税 (外部講師：予定)																	
12	相続税法																	
13	酒税法と酒類行政 (外部講師：予定)																	
14	車体課税等																	
15	納税環境整備																	
ラー イ ク ニ ン グ	A:知識の定着・確認		○		講義後に、アンケートや小レポートの提出を求めたり、小テストを実施したりすることにより、知識の定着を確認するとともに、今後の租税のあり方について自分の意見を表現することとします。					エ そ 夫 の 他 の	近年の税制改正や来年度に向けた議論の動向等、最新の内容に触れるようします。 また、特定の分野に精通した外部講師の特別講義を実施し、理解を深められるようにします。講義の順序や特別講義の内容・回数等は変更の可能性があります。							
	B:意見の表現・交換		○															
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
授業時間外学修 の内容と想定時間	準備学修		教科書の次回該当部分の事前学習 (15h)。															
	事後学修		学習した内容の定着のための復習 (30h)。															
	想定時間合計		45															
教科書	特定の教科書は使用せず、レジュメを作成します。また、『税務大学校講本』及び『政府税制調査会「わが国税制の現状と課題－令和時代の構造変化と税制のあり方－」(令和5年6月)』を適宜参照します。いずれの資料もインターネットで閲覧可能です。																	
参考書	参考書は指定しませんが、有用なものは講義中に紹介します。																	
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	試験						70%	○	○									
	アンケート・小レポート・小テスト						30%	○	○									
期末試験は、パソコン等や資料(パソコン内にダウンロードしたものも含む)の持ち込み可とする筆記試験とします。試験中はインターネットへの接続は不可とします。																		
注意事項	・講義中にインターネットを使用することがあるので、パソコン等の持ち込みをお願いします。 ・レジュメはMoodleにPDF形式で掲載することとし、紙での配布は省略します。講義中にパソコン等で閲覧可能とするか、プリントアウトして持参してください。																	
備考	租税法を専門的に学習するにあたっては、簿記・会計の知識があるのが望ましいですが、本講義では、それらの知識を前提とはしないようにします。																	
リンク																		
	URL																	
担当教員の実務経験の有無	○																	
教員の実務経験	国税庁・国税局・税務署に加え、財務省主税局・主計局、内閣官房(マイナンバー制度担当)、在上海日本国総領事館で計約20年の実務経験があります。																	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○																	
教員以外の指導に関わる実務経験者	熊本国税局などの実務担当者による特別講義を予定しています。																	
実務経験をいかした教育内容	国税庁課長補佐として、消費税の軽減税率・インボイス制度など、税務行政の施策の企画・立案を行なうとともに、国税局課長や税務署長として現場の事務運営に携わりました。また、財務省主税局課長補佐として、令和5年・6年度の税制改正や政府税制調査会の中期答申『「わが国税制の現状と課題－令和時代の構造変化と税制のあり方－」(令和5年6月)』の取りまとめにも携わりました。それら経験を踏まえ、実務実態に即した内容にするように心掛けます。																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
K532R338		犯罪と法 (Crime and Law)					メジャー専門科目 地域研究メジャー科目		対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態									
選択		2	2, 3, 4	経	後期	金5												
担当教員	氏名 利光 宏司（非常勤講師）																	
	E-mail bundai2023-01@takefal0432.com 内線																	
授業の概要	日頃報道やドラマ等で見聞きする刑事法制度（刑法，刑事訴訟法，犯罪者処遇法）の世界を実務家の視点から解説する。 基礎的な法解釈学や判例の学習を中心として刑事法制度の理解を深めるとともに，法的思考力及び表現力の基本を身につけることを目標とする。若者の新聞離れが叫ばれて久しい中，本講義では敢えてオールメディアと揶揄される新聞記事を豊富に用い，刑事弁護人としての経験談等も取り入れつつ実務家の視点から事件報道に対する解説を行い，刑事法制度を理解する一助としたい。																	
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7		
目標1	法体系の中で刑事法制度が置かれた位置を理解する。								○									
目標2	刑事法制度を貫く大原則を理解する。											○						
目標3	捜査・公判など刑事司法の仕組み及び法曹（裁判官・検察官・弁護士）や警察官（司法警察職員）の役割について理解する。								○									
目標4	犯罪の成立要件など刑法の基礎を理解する。								○									
目標5	刑事法制度の理解を通じて論理的な思考力・表現力を身につける。									○	○	○	○					
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度（計10）									3	1	2	3	1					
授業の内容																		
1	ガイダンス																	
2	憲法から見た刑事法制度 刑事法制度の大原則とは																	
3	刑事訴訟法の基礎 捜査（1） 警察に逮捕されたらどうなるか																	
4	刑事訴訟法の基礎 捜査（2） 警察に逮捕されたらどうなるか																	
5	刑事訴訟法の基礎 公判（1） 裁判所に起訴されたらどうなるか																	
6	刑事訴訟法の基礎 公判（2） 裁判所に起訴されたらどうなるか																	
7	刑法総論の基礎（1） 犯罪が成立するには																	
8	刑法総論の基礎（2） 犯罪が成立するには																	
9	刑法総論の基礎（3） 犯罪が成立するには																	
10	刑法各論の基礎（1） どのような行為が犯罪になるのか																	
11	刑法各論の基礎（2） どのような行為が犯罪になるのか																	
12	犯罪被害者から見た刑事法制度 犯罪被害者はどのように扱われているか																	
13	裁判員制度																	
14	犯罪者処遇法 刑事裁判のその後																	
15	講義のまとめ																	
ラーニング エッセンス グループ	A:知識の定着・確認		対話形式の授業（受講生には積極的な発言を求める）					エ ス の 夫 の 他 の										
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		刑事法制度に関連する事件事故報道（新聞，テレビ，ネット）に触れること 2時間×15回 30時間															
	事後学修		講義レジュメを中心に重要箇所を復習すること 1時間×15回 15時間															
	想定時間合計																	
教科書		特に指定しない																
参考書		井田 良（著）「基礎から学ぶ刑事法（第6版補訂版）」 （有斐閣アルマ）																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法							割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	平常点							50%										
	期末テスト							50%										
注意事項		最新の小型六法（「ポケット六法」（有斐閣），「デイリー六法」（三省堂））を用いて学習することが望ましい。																
備考																		
リンク																		
	URL																	
担当教員の 実務経験の有無	○																	
教員の 実務経験	弁護士																	
実務経験を いかした教育内容	実務家の視点から刑事法制度の原則と実際の運用を比較しつつ解説する。																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式							
K53IR339		法律の基礎と実務 (Legal Basis and Practice)					メジャー専門科目 地域研究メジャー科目			対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態						
選択		2	1,2	経	後期	火5											
担当教員	氏名 利光 宏司																
	E-mail bundai2024@taketai0432.com 内線																
授業の概要	大分県弁護士会の法教育委員会に所属し、第一線で活動する複数の弁護士がリレー形式で講義を行う。 社会人への第一歩を踏み出した受講生のために、社会人として最低限知っておくべき法知識を身につけてもらうことを目的とするが、アカデミックな法学の授業にとどまらず、裁判例や担当弁護士が日々取り組む実務の体験談を交えることで、ダイナミックな法律実務の世界を体感し、弁護士を身近な存在として認識してもらいたい。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7		
目標1	法学の世界を体感する。												○				
目標2	代表的な法分野の基礎について理解する。						○										
目標3	法曹の仕事を知る。										○						
目標4	双方向の講義を通じて論路的な思考力・表現力を身につける。								○	○				○			
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)							1	2	2	1	2	2					
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	債権法の基礎(1)																
3	債権法の基礎(2)																
4	不動産と法																
5	会社と法(1)																
6	会社と法(2)																
7	労働者と法																
8	民事紛争の解決法																
9	家族法の基礎(1)																
10	家族法の基礎(2)																
11	刑事法の基礎(1)																
12	刑事法の基礎(2)																
13	インターネットと法																
14	主権者と法																
15	講義のまとめ																
ラーニングエッセンス	A:知識の定着・確認		○受講者の積極的な発言を求める。					工夫その他の									
	B:意見の表現・交換		○														
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		新聞やテレビのニュースによく触れておくこと。(20h)														
	事後学修		講義で触れた重要箇所を適宜復習すること。(25h)														
	想定時間合計																
教科書	特に指定しない。																
参考書	特に指定しない。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	平常点						50%										
	期末レポート						50%										
注意事項	最新の小型六法(「ポケット六法」(有斐閣)、「デイリー六法」(三省堂))を用いて学習に取り組むことが望ましい。																
備考	50人の人数制限が行われます。1・2年生限定で1年生は「地域経営・法コース」の学生を優先します。																
リンク																	
	URL																
担当教員の 実務経験の有無	○																
教員の実務 経験	弁護士																